

令和5年度 当初予算案について

市民と歩む飛躍へのチャレンジ

～『社会・市政課題への取組みを意識したまちづくり』～

令和5年2月16日

羽 島 市

1 予算編成に当たっての基本的な考え方等

1 令和5年度 市政運営方針

市政運営のキーワード

市民と歩む飛躍へのチャレンジ～『社会・市政課題への取組みを意識したまちづくり』～

令和4年度は、市役所旧本庁舎のあり方について、今後の行財政運営への影響、建築物としての利用価値、周辺への安全性等の課題を中心に検討を進め、解体する方針を決定した。長期化するコロナ禍にあって、ワクチン接種をはじめとする感染症対策を円滑に実施した。新型コロナや物価高騰の影響下にある市民負担を軽減するために、給食費無償化や指定可燃ごみ袋の無償配布を行った。また、福寿小学校では児童数増加に対応するための教育環境の充実を図るべく新しい校舎の供用を開始するなど、現下の課題解決に着実に取り組んだ年となった。

令和5年度は、次代への飛躍を見据えた「社会・市政課題への取組みを意識したまちづくり」を目指す。引き続き、正確な情報発信に基づく市政の見える化を進め、市民ニーズを反映した事業の「選択と集中」を行う。特に、ゼロカーボンシティ実現に向けた新たな試みを進めるほか、旧本庁舎解体・跡地利用等の計画・立案や教育、災害対策、行政DX等の分野でも事業構築を図り、社会情勢（SDGsの取組・Society5.0の推進）も踏まえた積極的な施策を展開する。

1 予算編成に当たっての基本的な考え方等

2 予算編成に当たっての基本的な考え方

① 「GX」「DX」「包摂社会の実現」「地域活性化の推進」等への重点投資

新しい時代に向けて必要となる「GX」「DX」「包摂社会の実現」「地域活性化の推進」等の財政需要に対し「新たな日常」の構築・実現に向け、国・県の施策と歩調を合わせながら、事業効果を高め「事務事業の質的向上」を図る。

② 選択と集中の「財政安定化対策」を踏まえたより実践的な予算編成

厳しい財政下においても、これまで課題として捉えてきたものの積み残されてきた事業を実施し、選択と集中の「財政安定化対策」に基づき、歳入確保・歳出削減を実施した。

また、市民の方々に市政を自分ごとと捉えていただくことで、次世代への負担を残さない市政運営に向け、メリハリの効いた予算を編成した。

③ 「羽島市第六次総合計画」等に沿った新たな施策展開

羽島市まちづくり基本条例の理念である「市民を主体としたまちづくり」に基づき、将来都市像「心安らく 幸せ実感都市 はしま」実現のため、社会情勢（SDGs（持続可能な開発目標）の取組やSociety5.0の推進等）も踏まえた新たな施策を展開する。

1 予算編成に当たっての基本的な考え方等

3 SDGs（持続可能な開発目標）等の推進

今後、少子化・高齢化、人口減少が続いていくなかで、持続可能な自治体経営・まちづくりを円滑に進めていくためには、多様化・複雑化する行政課題に対して、あらゆる施策を相互に連携させ、高みを目指す必要がある。

国際的な指針として、国連サミットで2015(平成27)年9月に採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、あらゆる分野を網羅し、市の実施する施策にも密接に関わっており、市政においても早期に取り組むことが重要であると考え、SDGs(持続可能な開発目標)等の推進を意識した予算編成を実施した。

また、Society5.0時代※の到来による技術革新の取組みをあらゆる施策で模索・取り入れることで、市民生活が豊かになる社会を目指す必要がある。

※Society5.0

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く人類史上5番目の新たな社会(超スマート社会)。IoT(「Internet of Things」の略で様々な物がインターネットにつながること)、ロボット、人工知能(AI(「Artificial Intelligence」の略))、ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人ひとりのニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会である。

1 予算編成に当たっての基本的な考え方等

用語説明

SDGs（持続可能な開発目標）

「Sustainable Development Goals」の略で、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された2016（平成28）年から2030（令和12）年までの長期的な開発の指針として採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標である。

持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残されないことを誓っており、発展途上国のみならず、先進国も取り組む必要があるもの。

国では、2016（平成28）年5月に内閣に持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を立ち上げ、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者をめざす」というビジョンを掲げ、SDGsのゴールとターゲットのうち特に注力すべきものを示した8つの優先課題について、国内及び国外で施策を実施している。

■ SDGsのロゴ（17のゴール）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



■ SDGs8つの優先課題

1 あらゆる人々の活躍の推進

2 健康・長寿の達成

3 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

4 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

5 省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

6 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

7 平和と安全・安心社会の実現

8 SDGs実施推進の体制と手段